



フタバアオイの苗を土津神社に植える児童ら

フタバアオイを土津神社に植栽

学校と神社のつながり、郷土の歴史を学ぶ

猪苗代小の環境委員 13 人は 6 月 30 日、学校で 1 年間育ててきたフタバアオイを土津神社に植えました。フタバアオイは、同校の校章のモチーフであるとともに、土津神社の御神紋にもなっています。学校と神社のつながりや郷土の歴史を学んでもらおうと、土津神社がこの取り組みを企画。委員長の大堀羽愛さんは「冬の間、枯れたようになり心配しましたが、3 月ごろから葉がぐんぐん伸びてきました。元気に育ってほしいです」と話しました。

熊の生態や身を守る方法を学ぶ

猪苗代小学校放課後子ども教室

猪苗代小学校放課後子ども教室が 7 月 2 日、同校で開かれ、4 ～ 6 年生約 40 人が熊の生態や遭遇しないための対策について学びました。講師を務めた町農林課の飯田優貴主査は、熊鈴を身に付けたり、大きな声で会話をしたりして、人の存在を熊に知らせることが大切と説明。児童たちは、クイズ形式で熊の足跡や食べ物、活動時間などを学んだほか、毛皮や足、頭蓋骨に実際に触れ、熊への理解を深めました。



熊の毛皮や足、頭蓋骨を間近で観察する猪小の児童

中学生が主体となり企画

いなわしろスポーツフェスティバル開催へ

いなわしろスポーツフェスティバル実行委員会が 7 月 13 日、同校で開かれ、実行委員を務める同校の生徒や区長会長らが参加しました。町教育委員会の職員がフェスティバルの概要を説明した後、生徒たちは昨年度の反省を生かして企画した世代間交流体育祭について、競技種目やチラシ・ポスター案を発表しました。委員長の眞塩柚樹さんは「みんなの印象に残る最高のフェスティバルにするので、ぜひ参加してください」と来場を呼びかけました。



来場を呼びかける(右から)眞塩さん、田多羅里桜さん、菅沼新さん

条約登録から 1 年を記念し講演

猪苗代湖の水質保全などへの理解を深める

猪苗代湖のラムサール条約湿地登録から 1 年を記念した講演会が 7 月 15 日、町役場で開かれました。県環境アドバイザーの佐々木清さんが講師を務め、猪苗代湖の水質保全活動や賢明な利用などについて講演。佐々木さんは、「水が汚れてから改善するのは大変。汚れないようにする対策が重要」と話し、自身が取り組む活動なども紹介しました。参加者の 1 人は、「猪苗代湖の現状を理解できた。自分にもできることを考えていく」と話しました。



大勢の参加者が集まった記念講演会



育成会の河内玲子元副会長(右から 2 人目)、(左から)山田幸一元団委員長、蛭澤莉子さんが解散を報告

育成会が地域へ感謝を伝える

ボーイスカウト活動に幕、スカウト育成会も解散

猪苗代スカウト育成会の関係者が 6 月 22 日、町役場を訪れ、二瓶盛一町長に解散を報告。育成会は昭和 51 年、ボーイスカウト福島第 73 団(後の猪苗代第 1 団)の発足とともに設立され、青少年の健全育成に取り組んできました。しかし、少子化による団員減少などにより令和 7 年度をもって同団の活動を終了し、育成会も解散しました。一ノ瀬正敏会長は、地域の皆さんへの感謝を伝え、今後もガールスカウトの活動への支援を呼びかけました。

スポーツで交流を深める

町高齢者スポーツ大会

スポーツを通じた健康増進を目的とする町高齢者スポーツ大会は 6 月 25 日、カメリーナで開かれ、各地区から約 50 人が参加しました。開会式では、吾妻地区を代表して服部恒夫さんが選手宣誓。競技は、「ワナゲ」「ラダーゲッター」「スカットボール」「フライングディスク」の個人種目と「玉入れ」の団体種目で争われ、吾妻地区の大桃直四郎さんが優勝しました。参加者は、仲間との交流を楽しみながら、心地よい汗を流しました。



得点穴の開いた板を狙ってボールを打つ参加者



ＪＲ猪苗代駅前で行われた 7 月 1 日の啓発活動

犯罪のない明るいまちへ

「社会を明るくする運動」強調月間

「社会を明るくする運動」強調月間の 7 月、町内では、猪苗代地区保護司会や更生保護女性会などが、犯罪のない明るい社会を築くための啓発活動を行いました。7 月 1 日早朝には、ＪＲ猪苗代駅前などで街頭啓発を実施。参加者はチラシなどを配布し、非行防止や犯罪のない地域づくりを呼びかけました。また、14 日には町内広報活動として広報車で呼びかけを行ったほか、事業所を訪問し、明るい社会づくりへの協力を求めました。

迅速な消火活動へ技術磨く

町消防団訓練成果報告会

町消防団訓練成果報告会は 6 月 28 日、町水防センター西側駐車場で開催されました。報告会では、第 1 分団から第 6 分団までがそれぞれポンプ車や軽積載車を使った訓練を披露。さまざまな火災現場を想定し、指揮者の指示のもと、各団員が迅速かつ的確な放水や消火活動を実践しました。

団員たちは、真剣な表情で訓練に取り組み、消防技術の向上を図りました。



きびきびとした動作で的確に火点へ放水する団員